国語

田中　里彩
安部　彰浩

自らの学びに明確な目的意識をもつ言語活動を通して，活用できる言語能力を育てる国語科の学習

Ⅰ　国語科研究の方向性

１　主題設定の理由

新学習指導要領では，国語科の目標や内容が三つの柱で整理されました。内容の構成は，「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」及び〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕だったものが，〔知識及び技能〕〔思考力，判断力，表現力等〕に整理されました。改定の趣旨を踏まえると，〔学びに向かう力，人間性等〕を原動力とし，〔知識及び技能〕と〔思考力，判断力，表現力等〕が関連し合う学習過程を構築する必要があります。

過去３年間（H28秋～R１夏）は，「自らの言葉を探究する言語活動を通して，言葉の力を高める国語科の学習」を目指して研究を進めました。理解・表現した言葉を教材とし，問い直すことで，言葉の力を高めることを目指しました。成果としては，「全国学力・学習状況調査　国語」（H29～R１）の全問題で全国正答率を上回るなど，児童の言葉の力が高まっていることが挙げられます。一方で，相手や目的等に応じて言葉の力を発揮することには課題があります。同調査（R１）の「国語１三　目的や意図に応じて，自分の考えの理由を明確にし，まとめて書く」等に，その課題が表れています（本校：37.0%，全国：28.9%）。

全体研究で目指す「探究する子供」を国語科で具現化すると，「相手や目的等が明確な言語活動において，自らの思いや考え，意図をもち，『知識及び技能』と『思考力，判断力，表現力等』を相互に関連させながら伝え合い，（自分なりの）答えにたどり着き，分かったことを次の言語活動や他教科・他領域の学習，日常生活で活用する子供」と考えます。

そこで，研究主題を「自らの学びに明確な目的意識をもつ言語活動を通して，活用できる言語能力を育てる国語科の学習」と設定しました。「自らの学びに明確な目的意識をもつ」とは，言語活動及び学習内容に明確な目的意識をもつことです。「活用できる言語能力」には，「学習の基盤となる資質・能力」である「言語能力」を，単元内だけではなく次の言語活動や日常生活，他教科・他領域で活用できる力として育みたいという願いを込めています。

２　目指す児童の姿とその具体

既習の内容等を基に学習の見通しをもち，相手や目的等に応じて言葉を問い直し，思いや考えを広げながら言語活動に取り組む児童

「既習の内容等を基に学習の見通しをもち」とは，言語活動における①相手や目的，②内容や制限，③活用可能な既習事項，④身に付けたい力について見通しをもつことです。「相手や目的等に応じて，言葉を問い直し」とは，理解の正確さや表現の適切さについて，上記①～④を踏まえて言葉を吟味することです。「思いや考えを広げながら言語活動に取り組む」とは，試行錯誤しながら粘り強く言語活動に取り組む中で，「これも伝えたいな。」「この方法はどうだろう。」など，思いや考えを広げることです。

Ⅱ　研究内容の具体

１　自らの学びに明確な目的意識をもつ言語活動の設定と遂行

言語活動を，「相手や目的等が明確な言語活動」にし，探究型の学びにするためには，既習事項とつないだり，他教科・他領域とつないだりすることが有効です。そのためには，教育課程の実施の仕方や言語活動の設定の仕方を工夫するとともに，言語活動との出会いの場面で学習の見通しをもたせることが大切です。また，単元を貫く大きな問いと，小さな問いの組合せを考えることも大切です。ここでは，言語活動を，自らの学びに明確な目的意識をもつ活動にするための手立てについて明らかにしました。

○自らの学びに明確な目的意識をもたせる教育課程の在り方
・ゆるやかなつながりのあるカリキュラムの作成，年間を概観できるページ作り

○言語活動の設定の工夫と出会いの工夫
・児童にふさわしい「文脈」の設定，「相手や目的」「内容や制限」「活用可能な既習事項」「身に付けたい力」について見通しをもたせる出会いの工夫

○大小様々な問いと共に進む単元構成の工夫と問いを生む工夫
・児童にとっての問いを大切にすることで，切実感のある学びになるようにする

２　活用できる言語能力を育てる指導

活用できる言語能力を育てるためには，学習の過程に，児童が伝え合った言葉を学習対象として捉え，言葉を問い直すプロセスが位置付いていることが大切です。問い直すことで，言葉への自覚が高まり，思いや考えを広げながら言語活動に取り組むことができます。

「問い直し」を含む上記の過程において，教師は，試行錯誤しながら粘り強く取り組む児童のファシリテーターとして振る舞うことが求められます。ここでは，ファシリテーターとしての教師の在り方について明らかにしました。

○ファシリテーターとしての教師
・児童同士をつなぐ(「この考えについて，どう思う？」「どうして考えの違いが生まれたのかな」など，児童を揺さぶることで児童の対話を生み出す)，中間交流の場の創出，学び直しを支える，相談・学習コーナーの設置など，学習活動の支援を行う

３　活用できる言語能力を育む評価

「言語活動における児童の姿」として評価規準を具体化しておくことで，形成的な指導を効果的にすることができます。そして，そのことによって，児童に言語能力を育むことができます。また，児童が育んだ能力を児童自身が実感することも「活用できる」という視点では大切です。ここでは，評価規準の具体化や，児童の振り返り方についての工夫について明らかにしました。

○評価規準と指導の手立ての具体化
・評価規準を，言語活動を遂行している姿として具体化し，児童に対する手立てを想定する

○探究物語を紡ぐポートフォリオと振り返り
・問い，探究の仕方，結論を振り返る（学びの調整能力を育て，粘り強い取組を生む）
・振り返りの視点の検討
・ノートの活用（使用済ノートの扱い方も），１枚ポートフォリオ等のワークの活用
・単元内の学び，単元間の学び，日常生活や他教科・他領域の学びへの展開方法

＜１年次研究の重点＞
・「自らの学びへの目的意識」（問い）をもたせるための言語活動の設定や，学習過程の工夫
・活用できる言語能力を育む学習評価の在り方（児童の振り返り方を中心に）

Ⅲ　研究実践

２年生実践　『生き物のことを　せつめいしよう』

実践のテーマ：　分かりやすい説明の仕方について考え，試し，実践することで，
文章の構成を考える力を高める学習

１　研究授業のねらい

〔思考力・判断力・表現力等〕の「Ｂ　書くこと」の指導事項イ「自分の思いや考えが明確になるように，事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。」の力を高めるために，生き物について説明する文章を書くという言語活動を設定しました。

本研究では，単元で育てたい力について，児童自身が目的意識をもつことを目指しました。本研究授業に当てはめると，児童自身が「よりよい順序を考えたい。」と思えるようにするということです。そこで，次の３点を工夫しました(p. 12で検証します)。

①取材を前時までに終え，「何を書くか調べたい」という気持ちを満足させることで，「どう書くか」という問い（順序についての問い）が発生するようにした。
②順序の大切さを実感できるように，「はじめ・中・おわり」について試す活動を位置付けた。
③自らの学びを児童自身が把握できるように，自分の仕方等を「学習さくせんシート」に振り返る時間を設けた。

２　単元の指導計画（10時間扱い）(〔知識及び技能〕と関連が深い内容は，(知・技) と記載。番号は評価規準に対応)

《国語科を通して育てたい本校の資質・能力と単元との関わり》
A　解決策を構想する力⇒学習課題を達成するために必要な学習内容や学習方法を考え，学習計画を立てる児童。
C　論理的に考える力⇒自らの考えや思いを適切に表現できる言葉を選んだり，他者の考えや思いについて言葉を通して正確に理解したりする児童。
F　自らを振り返る力⇒学習計画を振り返り，言葉の力の高まりや学び方のよさを実感したり，今後の課題を明確にしたりする児童。

時	学習内容・活動内容	相手や目的等を明確にしている児童の姿
	Ⅰ　単元と出会い，学習活動への見通しをもつ。	
①	◇単元における言語活動を知る。 ・生き物せつめいブックを作ることを知る。 生き物せつめいブックを作ろう！	分かりやすい説明のためには，説明の順序や，「はじめ・中・おわり」を意識することが大切であることに気付いている。
②	◇既習の学習を想起しながら使えそうな言葉の力について考え，学習計画を立てる。(知・技③)	
	Ⅱ　取材・構成・記述・推敲をし，「生き物せつめいブック」を作る。	
③ ④	◇生き物についての情報を集める。(題材の設定等) ・図鑑から説明したい生き物について情報を集め，メモカードに書く。	自分が伝えたい生き物を決め，伝えたい理由に合う情報を集めている。
⑤	◇メモカードの小見出しを書き，再取材する。（内容の検討） ・「大きさ」等の小見出しを書き，必要な事柄を確かめる。（知・技①）	
⑥	◇三段落をまとめる。 ・一文でまとめられない内容をどう扱うか考え，写真の説明に必要な内容をまとめる。（知・技(1)カ）	
⑥（本時）	◇自分の説明の組み立てを考える。（構成の検討） ・メモカードを操作しながら，説明の組み立てを考える。 ・伝えたいことに合わせて，順序を決めることを知る。	伝えたいことが伝わるような順序を考えている。
⑦ ⑧	◇組み立てを基に記述する。(考えの形成，記述) ・下書きをし，推敲する。音読し，言葉や内容の確認をする。(知・技②) ・清書をする。	条件を意識しながら，書く量や必要な事柄を決めて書いている。
	Ⅲ　「生き物せつめいブック」を読み，学習を振り返る。	
⑨	◇みんなの説明文をブックにまとめ，読む。（共有） ・感想を伝え合い，自分の文章の内容や表現のよいところを見付ける。 ・「はじめ・中・おわり」を意識して書くことのよさを実感する。 ◇単元の振り返りをする。 ・単元を通してできるようになったことなどを振り返る。	読み手から感想をもらうことで，説明の目的が達成できたことを実感し，順序などの書き方がよかったことを振り返っている。
⑩	・「これからどんな学習で使えそうか」を考える。 順序を意識することで，分かりやすい説明をすることができた。これからも役立てていきたいな。	

３　本時の学習

(1) 本時の目標

自分の思いや考えが明確になるように，事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。

(2) 本時の展開（10時間扱いの６時間目）

学習内容と主な学習活動	研究との関わり・留意点
1　前時の振り返り，学習計画を確認する。 ・今日は，書く順番を考えるんだね。 ・そういえば，「はじめ・中・おわり」が大切って確認したな。 2　本時の課題を確認する。	**◇自分の探究物語を紡ぐポートフォリオと振り返り** **研究視点３－②** ・何人かの前時の振り返りを紹介し，書く材料が集まっていることを確認する。
生き物をせつめいする文の「じゅんばん」を考えよう。	
・「はじめ・中・おわり」ができるか分からないって言っている人がいた。 3　順序は目的によって決めることを知る。 ・グループで，試しの活動に取り組む。 ・調べた理由を書いているのが，「はじめ」じゃない？ ・中は，どういう順番にしたらいいんだろう。 4　自分の説明文の順序を考える。 ・大きさのことを最初に伝えたいな。 ・「おわり」って何を書いたらいいんだろう。 →課題意識が出てきたところで活動をストップさせ，中間交流をする。 5　順序を決め終えた人は，記述に移る。 6　学習のまとめをする。	・何人かの「さくせんシート」を紹介し，問いを共有する。 **◇ファシリテーターとしての教師** **研究視点２－②** ・グループで具体物を操作しながら考える。 ・順序は目的によって決めてよいことを確認する。 **◇大小様々な問いと共に進む，単元構成の工夫** **研究視点１－③** ・個別に対応するか，中間交流をするか判断をする。 【思考・判断・表現】 自分の思いや考えが明確になるように，事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。（行動観察，ワークシート） ・記述用の紙を準備しておくなど，個人の進度に合わせて活動を進められるように環境を整えておく。
生き物を説明する文は，「はじめに」に調べた理由，「中」に伝えたいこと，「おわりに」に「中」をまとめたことを書く。じゅんばんは，伝えたいことを，はじめに書くといいんだね。	
7　学習の振り返りをする。 ・さくせんシートに振り返りを書き込む。	**◇自分の探究物語を紡ぐポートフォリオと振り返り** **研究視点３－②** ・視点に基づきながら書き方等をアドバイスする。

◇授業の見所・本時で願っている児童の姿

○グループ活動で確認したことを基に，自分が伝えたいことが伝わるように順序を考えている姿。

４　授業の実際

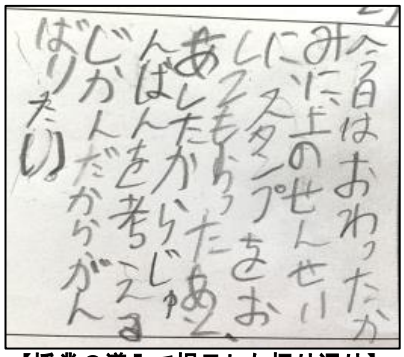
「自らの学びへの目的意識」（問い）をもたせるための言語活動の設定や，学習過程の工夫

「Ⅲ　研究実践」「１　研究授業のねらい」（p. 10）で記載した，

> ①取材を前時までに終え，「何を書くか」の気持ちを満足させることで，「どう書くか」という問い（順序についての問い）が発生するようにした。
> ②順序の大切さを実感できるように，「はじめ・中・おわり」について試す活動を位置付けた。

について振り返ります。

①については，単元の１～２時間目に児童と共に学習計画を立て，３～５時間目に生き物についての情報を集めたため，研究授業の前時には，「何を書くか調べたい。」という気持ちから「順番を考えることを頑張りたい。」という気持ちに移り変わっている児童が多くいました。その気持ちを共有するために，研究授業の始めに，児童の前時の振り返りを提示しました。振り返りを提示したことにより，順序を考えていくという意識を共有することができ，児童が本時の課題を進んで考える姿が見られるなど，自らの学びに目的をもたせることができました。



【授業の導入で提示した振り返り】

②については，試す活動として，教師自作の文章をグループで並べ替えました。グループで並び替える活動にした理由は，（１）順序や「はじめ・中・おわり」に対する理解の差を埋めることができる，（２）並び替える理由を話し合うことで，順番を考える意味を実感することができる，と考えたからです。グループ活動では，「はじめ（調べたきっかけ）」「おわり（まとめ）」は決まったものの，「中」の順番について悩むグループが多く見られました（問いの発生）。児童の問いが出てきたところで全体交流に移り，「中」は自分が伝えたい順番に並び替えるとよいことを確認しました。

これは，「調べたきっかけ」が書いてあるから，これが最初。一応，こうしておこう。

「中」の順序は難しいね。何でこの生き物を調べたのか，何を伝えたいのかが分からないから。

【グループで並び替える活動をしている児童の姿（吹き出し内は，抽出児童観察記録より抜粋）】

探究物語を紡ぐポートフォリオと振り返り

「Ⅲ　研究実践」「１　研究授業のねらい」（p. 10）で記載した，

> ③自らの学びを児童自身が把握できるように，自分の仕方等を「学習さくせんシート」に振り返る時間を設けた。

について振り返ります。

実際の授業では，児童は自らの説明文の組み立てを考えている最中でしたが，「学習さくせんシート（以下，シート）」に振り返る時間を取りました。シートの記述からは，「今日の時間は，順番を考えることで，うまく工夫できた。」（抽出児童観察記録より）など，多くの児童が自らの学びを把握していることが分かりました。一方で，「くふうできてよかった。」のみ記載している児童（A）も見られました。観察者がAに「どうしてこの順番にしたのか。」と尋ねたところ，「１番目には，調べたきっかけを書いた。２番目には，餌をあげるときに気を付けることを書かないと危ないからそうした。」と答えるなど，A児は思考・判断した上で順番を並び替えていることが明らかになりました。児童の頭の中には，A児のようにシートに表出されない学びがあるため，教師が聞き取ってシートを補うなどの手立てを取る必要があることも明らかになりました。

Ⅳ　１年次研究の成果と課題

国語では，研究主題を「自らの学びに明確な目的意識をもつ言語活動を通して，活用できる言語能力を育てる国語科の学習」と設定し，「自らの学びに明確な目的意識をもつ言語活動の設定と遂行」「活用できる言語能力を育てる指導」「活用できる言語能力を育む評価」の３点を中心に研究を進めました。

１年次研究では，「『自らの学びへの目的意識』（問い）をもたせるための言語活動の設定や，学習過程の工夫」と，「自らの学びを遂行するエネルギーを生む，学習評価の在り方（児童の振り返り方を中心に）」を重点として研究を進めてきました。

１　研究の成果

○言語活動の設定レベルの大きな問いと，言語活動を遂行していく際に生まれる小さな問いのタイミングを考えることで，児童は自らの学びに目的意識をもって学習に臨むことができました。今後も，児童が何をしたいと考えているのかを大切にしながら，学習過程を工夫していく必要があります。

○小さな問いを発生させたり，問いの方向性を揃えたりするために，試しの活動を設定することが有効であることが明らかになりました。試しの活動において，言語材料を操作することにより，児童は分かることと分からないことを自分自身で把握し，その後の学びに主体的に取り組みました。

○「学習さくせんシート」に振り返りを記述することで，児童は自らの学びへの目的意識を高めたり，自らができるようになったことを実感したりすることができました。振り返りを通して，児童は自らの学びをコントロールすることができ，学びの主人公として躍動する児童の姿が見られました。

２　今後の課題

○試しの活動で操作する言語材料によって，得られる学びが変わってしまうため，「何を与えて，試しの活動をするのか」という点については，慎重に吟味する必要があります。

○児童の書く能力によって，「学習さくせんシート」に表出する内容に差が生じます。児童の書く能力を育てていくのはもちろんですが，観察や聞き取り等の多様な評価を，児童のエネルギーに転換する方法についても模索していく必要があります。

Ⅴ　参考文献

○小学校学習指導要領　文部科学省　東洋館出版　平成29年７月

○小学校学習指導要領解説　総則編　文部科学省　東洋館出版　平成29年７月

○小学校学習指導要領解説　国語編　文部科学省　東洋館出版　平成29年７月

○平成31年度　全国学力・学習状況調査　解説資料　小学校　国語
国立教育政策研究所教育課程研究センター　平成31年４月

○平成31年度　全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた　授業アイディア例
国立教育政策研究所教育課程研究センター　令和元年９月

○「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（小学校，中学校）（評価規準の作成及び評価方法の工夫等）【案】　国立教育政策研究所教育課程研究センター　令和２年２月

○「逆向き設計」で確かな学力を保障する　西岡加名恵　明治図書　平成20年５月

○教育の効果　ジョン・ハッティ著　山森光陽監訳　図書文化　平成30年２月

○「学校」をつくり直す　苫野一徳　河出書房新社　平成31年３月